

### 第3回 学校構想検討委員会会議要旨

日時 平成30年8月29日  
午前9時30分～11時08分  
場所 1階まなびの広場

#### 会議の委員出席者

- ・岐阜大学教職大学院 教授 石川 英志
- ・岐阜教育事務所 学校職員課長 代理 小出 直弘
- ・自治会連絡協議会長 翠 治彦
- ・コミュニティ学園運営協議会会長 大熊 龍夫
- ・町 PTA 連合会長 仲島 秀雄
- ・北方中学校長 浅井 孝彦
- ・北方南小学校教諭 大羽 幸恵
- ・北方町議会議員 井野 勝巳
- ・北方町議会議員 杉本 真由美

#### 欠席の委員

なし

#### 会議の事務局出席者

- ・教育長 名取 康夫
- ・教育課長 河合 美佐子
- ・学園構想推進室長 浅野 浩一
- ・参事兼福祉健康課長 林 賢二
- ・防災安全課長 白井 誠

#### 書記の出席者

- ・学園構想推進室 係長 佐藤 弘章

#### 会議の主な内容は以下のとおり

##### 1. 座長あいさつ

改めましてみなさんおはようございます。本日は、第3回目の検討委員会ということで協議も非常に重要なところに入って参ります。北方学園構想をよりよいものにしていくためにみなさまにはそれぞれの立場からいろいろ多面的に忌憚ないご意見をいただ

きたいと考えております。

## 2. アンケート結果の報告について

事務局からアンケート結果について説明をする。

委員の主な意見は以下のとおり

○アンケート結果が47通とあるが、どのような形でアンケートを取りましたか。

⇒広報誌及びホームページにて周知をさせていただきました。また、教育委員会関係窓口でアンケート用紙の配布もさせていただきました。当初は1ヶ月程度のアンケート期間と考えておりましたが、集まりが悪いということで2ヶ月ほどに期間を延ばして実施させていただきました。

○47通の意見では全体からみると意見が出たとは言えないのではないですか。それだけ関心が薄いというふうに感じます。40、50代が多いのは自分の子どもが中学校になるか中2、中3で受験の中で移動することを考えて心配事ではないのかなと思います。

⇒40、50代の方は、保護者の方が多いと思われます。すべての保護者の方向けのアンケート調査は別に行っており、そこと重なるため回答数が少なかったのではないかと考えています。調査はホームページでも実施しており、窓口にもアンケート用紙を用意しておりましたが、保護者以外の一般の方の関心はあまり高くなかったのかなと考えております。なお、多くの意見を頂くという点においては、保護者の方向けのアンケートは1300通を超える回答数がありましたので、こちらの方である程度集約できているのではないかと考えております。

○いまの段階ではこの程度の関心だろうなという気はします。中身が分かってくると意見が出てくる気はします。

⇒保護者の方は保育園から中学校3年生までの保護者はアンケートを出しているので子どもに関わっている人はみんな出しており、それ以外の方が今回の結果に反映されていると思います。

## 3. 北方学園構想について

各学園の施設配置について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

○北学園について、真ん中の道路はどうなりますか。

⇒前回にもお示しさせていただきましたが、道路を廃止しまして学校を敷地でつない

で一つの学園にすることを想定しております。くすのきは切らずに木の周りをロータリー化して南から入ってきてメインの玄関に行くというイメージで考えております。

○この道路を廃止するといろいろな影響が出てくると思います。

⇒実際の工事を進めるにあたっては地元の方に説明させて頂き、ご理解を頂きながら進めていくことが大事だと考えています。ただし、北学園を一つの学校として整備させていただくことを考えますと、学校が真ん中で分断されてしまっは一貫校としてのよさが発揮できなくなってしまうので、そういった事情をご理解いただけるようお願いしていきたいと考えております。

○道路は閉鎖しますが、子どもは入れるのですか。

⇒子どもの入り口を何処に設置するのかは今後の詳細を決めていく段階で詰めていきたいと考えております。全員が南側から登校することにしてしまうと不便ですのでそのあたりも考慮しなくてはならないと考えています。

○北学園の管理棟について、これだけの部屋を整備すると狭いのではないですか。坪数でいくとどれだけありますか。

⇒あくまでも現時点での想定ですが、約750㎡で約230坪程度です。この建物につきましては建設コストなども勘案しながら、必要な機能を満たすために十分な広さを考えて設計しなければいけません。適切なスペースが確保できるように進めていきたいと考えています。

○南学園の建て増しをするための基礎がすでに作ってあると聞いています。実際どうなのですか。

⇒増築する特別教室棟と思われますが、既設の基礎があるわけではありませんので基礎から作っていきます。

○他市町で学校の改築に携わった時の話ですが、大変話題になったのが通学路の話です。今も門を何処にするのかというお話があり、今後十分検討されるということで安心しました。その学校でもいくつか問題点がありまして、朝になるとここが混むということは地域の方がよく知っていて、今日のアンケート結果にもありましたが、まず学校が近くなる、遠くなるということがあります。当然通学路が変わる子どもさんもいる。そうなってくると朝は安全なのかという保護者の方の関心が非常に高くなり、慎重に進めて早めにお知らせした覚えがあります。もう一つは、悩ましかったのですが、子どもたちが門から入った後に玄関が何処になるのかということです。どのような動線でどの階段を使って教室まで行くのかという、機能面を考慮するといろんな要素

が絡んできて悩ましかった覚えがあります。安全面からと機能面からということについて、千葉でも通学路における痛ましい事件があったばかりですのでご検討いただければと思います。

- 子どもたちの動線をシミュレーションしながらいろいろ考えていくことは非常に大事だと思います。

**※以上の協議の結果、施設配置については、原案を基本として学校運営に必要な設備を整えていくことを委員会の方針として決定した。**

次に、教育方針(案)について(資料3)について説明する。

委員の主な意見は以下のとおり

- 方針の中の「安心・安全落ち着いた生活」の部分のところで、不登校、小学校5人、中学校18人とありますが、これは一般的に言ったら小学校から中学校に変わるといった環境の変化、新しい友達ができないといった色んな問題があって起きていることだと思います。今回、一つの学校になることによって学校が変わるのではなく小学校からそのまま中学校に進むことができる。いじめられている子ども、おとなしくて声を出せない子ども、環境の変化に対応しにくい子ども、いい状態で受け入れられる環境になると思います。

- これからは英語が必要ということで英語教育を充実させてほしいと考えています。加配の英語教師を配置するには財政的な問題もありますが、町単で増やしてでも充実させていく、それくらいの取り組みをしていかないと現状では教えきれないと思います。加配教員の配置を検討していただきたいと思います。岐阜農林高校との交流を図っているということについてですが、これも中高の体験学習などに取り組んでやっているのでこれも充実させてやっていただきたいと思います。さらに、岐阜農林高校に限らず特色のある高校などとの交流があればと思っています。また、前回も生徒数が1000人と500人になることに対して危惧しているといいましたが、山県市では過疎化の対策ということもあつてか、希望する学校に通学できるという取り組みをしていると伺っております。北方でも北学園に行きたい、南学園に行きたいといった希望により学校が選択できる制度があればアンバランスにならないのではないかと思います。

⇒英語教育を充実していくことは学校の特徴として打ち出ししていけたらと思います。岐阜農林高校は北方町内の学校なので、体験交流や高校生の演劇を中学生が観る機会をもつなど、様々な場面で交流をしていきたいと考えています。北方町以外

の学校とは難しいところはありますが幼・小・中そして高校へと繋がっていきますので高校との交流は一日入学とかオープンキャンパスであるとか、例えば本巢松陽高校は近いので工夫していききたいなと思います。選択校区については、いい面と悪い面があって、やはり地域との連携を考えますと地域の学校に行くということは大事なことだと思います。そこについては2回目の会議でも話題になりましたが、校区の境目や通学距離、部活動が北学園にあって南学園にないとかということによって変わるということはあるので、今後検討していききたいと思います。

○今回は義務教育学校ですが、私が魅力を感じるの、北方町には農業関係の学校があることを生かしていくことです。高校にとっても意味があることだと思っています。ウインウインの関係をどう作っていくのかということですが、体験とか農業はそのプロセスが見えやすいということがありますので、子どもたちにとってもいろいろ経験させ、キャリア教育や小中一貫だけではなく高校も見据えて、いろいろ考えさせる機会としたいと思います。農業について考えることは非常に重要なテーマであると思いますので小・中・高全体を通してそういうことも視野において考えていくことが大切だと思います。教師自身は、小学校の教師は中学校のことを視野に入れて、中学校の教師は小学校、高校を視野に入れて考えていく教員が今後求められていくと思います。そういうことを考えて北方町は非常にいい状況にあると思います。英語教育、平和教育については、これが北方町の今までの中では大きなものかなと思います。子どもだけが育つのではなく教師が育っていく場としての北方町でなければ子どもは育っていかないと。そのような考え方も方針の中に位置づくといいいのかなと思います。

○義務教育学校のよさを考えた時に前回、教員側のメリットも大きいというお話はさせていただきましたが、子どもたちのメリットも大きいと思います。それは近くにお手本となる姿があり、なおかつ従来の小学校・中学校では味わうことができない多様な学年・年齢の子たちをコミュニケーションの相手として発信・受信することが容易にできるということです。そのことを踏まえて事務局から説明のあった英語もそうですし、ICTといった情報がすばやく発信できる、やり取りができることはすべてそのとおりでコミュニケーション能力を基盤としていくことは大賛成であります。その先ですが7歳から15歳というのは20年経つと27歳から35歳でそれこそ地域コミュニティのリーダーになっていく人たちで学園時代のあの先輩がいたから、あの後輩がいたからということが培われていてその地域を愛する社会人になっていくのではないかと思います。今、グローカリゼーションといわれていてグローバルな視野を持ちながら地域を大事にして地域のために貢献できる。これが求められる人材だと思いますので地域への愛着というところも一つどこか念頭に置いていただけたらなと思います。

○方針案にもあります深い学びに関して、教員として小中一貫教育になることでとても専門性の高い勉強を生かした授業ができるということはとても大きな特徴だと思います。子どもたちは非常に吸収力があるので教師側が専門的な授業ができると子どもたちはどんどん伸びると思います。毎日教材研究をしていますが、教科担任制になることでもっともっと伸びていって、子どもたちに力がついていくのだろうなと感じています。9年間を通して生徒指導ができるということはとても大きなことで、例えば3年前に5年生だった子どもが今中学校1年生になっていますが、中学生はとても早く登校するためほとんど会えません。気になる子はたくさんいますし、会いたいなと思ってもなかなか会えないですが、小中一貫になることで毎日でも子どもと顔を合わせられますし、子どもの変化にも気付くことができます。また、先生間でもコミュニケーションをとって生徒指導ができるといったことが非常に良いことだと思います。誇りと自信に関しては、地域に誇りを持って愛着を持てる子どもを育てたいと思っています。特に北方町では、平和学習、郷土学習などそういうことに力を入れていきたいなと思います。北方には歴史もたくさんありますし、そのことを勉強することで北方町っていいなと再認識できます。先日実施された地域の清掃活動に参加しましたが、昔教えていた子どもが高校3年生になっていてその子が朝の清掃活動に参加していて久しぶりに会いました。北方町のためにとって清掃活動に参加できる。そういった地域ぐるみの参加といったところも小中一貫教育を行うことによって、いずれ北方町でできることをしたいなという子どもがたくさん育っていくのかなと思います。夏にサミット会議が行われて小学校・中学校であいさつ運動での取り組みなどをきりりホールで報告しましたが、小中一貫校になることで9年間を通してあいさつ運動など北方で一緒にやっていけることができればと思います。

○義務教育学校に限らず公立の義務教育を行う学校なので、「だれもが」という言葉ははずせないと思います。学校がどのような形になってもその学校に通う「一人ひとりに」、「一人ひとりが」、になっていないと義務教育としての責任を果たしたことはないなので「だれもが」楽しく学べる学校、「だれもが」安心・安全に学べる学校、ということはずせない。「だれもが」誇りや自信が持てるというキーワードが出てきますが、「だれもが」「一人ひとりが」ということを教育方針として大事にしていくべきだと思います。また、学校は楽しくなくてはいけないと思います。その楽しい中身とは楽しく学ぶ中に深い学びが入っていること、楽しいの中に安心・安全がないと本当の意味で楽しくないでしょうし、そういった意味で楽しく学ぶ、学びあえるそういった学校にしていきたいと思っています。そして、誇りや自信もキーワードになっていますが、子どもたちにとっては、夢が広がるのかそういった学校にしていきたいと思っています。また、自信や誇りや夢に関する部分で、キャリア教育の話ですけれども、自分のものを

作るとか、自分を見つめる、自己理解が深まるなどそういったことを、9年間の中で教師がきちんと子どもたちの育ちを認めながら、子どもたち自身に自分がさらに何を学ぶべきなのか考えさせ、さらに義務教育が終わった後にでも続けていけるような、そういった基盤を作っていけるような教育をしていきたいと考えています。

- 深い学びということが今教育界では話題になっていますが、深い学びということは実は安全や安心、楽しいということに支えられないとできないのではないかと思います。考えてみれば当たり前のことですが、そこを忘れてしまいがちですので是非そのあたりも大切にしたいと思います。また、一部の子どもだけではなく、「だれもが」というところも位置づけるべきではないかと思う。一貫校どうこうではなく、義務教育としてそのところもベースとして押さえておくべきではないかと思う。それをどうやって具体化していくかについては、これからの小中一貫校としての北方学園の特色に即したものを創っていかなければならないと思います。
- コミュニティ学園協議会に参加している経験から、子どもが小学校に入るまでの幼・保との連携が一番大事だと思います。そこで親御さんへの教育がなければ、その後が進んでいかないのではないかという思いがいつもしています。子ども会に入る人が少なくなっている問題がありますが、地域でのふるさと学習や平和学習などそういうことも忘れずに小さい子どもの時からの継続が大事だと思います。小学校へ入る時もその前にそういう準備もあるということを保護者や地域の方にも知らせていきたいと思う。岐阜農林高校のことに関しては、演劇などをして自分でアピールをする力はすごくあると思います。そういうところと交流することで子どもたちも発表をする力や、声の出し方も変わってくるのかなと思います。そういう連携が今大事だと思って協議会をやっていますが、協議会の活動が北方学園の運営に生かすことができればよいと思います。
- 親の立場からすると学校に行つてのびのびと勉強や色んなことを学んで欲しいなと思います。羽島市桑原学園、白川郷学園、両校見学させていただきましたが、子ども一人ひとりの目がきらきらとしていました。自分の役割として何をすればいいのかということを理解し、上級生が下級生に例えば理科のトマトの授業を通して教えてあげたり一人ひとりがその学年にあった役割をしていけたらいいなと思います。先ほどの説明で、北方町は夢や希望を持っている子どもが少ないとありましたので、夢や希望に向かって努力している方を呼んで意見をいただけたらいいなと思います。
- 家庭との関係について、先生がどこまで家庭に入っていたりできるのか、今どのようなことをやっていたりしていますか。

⇒家庭教育学級など、保護者の方にも色々なことをお伝えする会がありますが、なかなか共働きなどで出てこられないので、最近は企業などでも家庭教育の取組みを行っているところもあります。北方町においては、家庭教育推進員が幼稚園・保育園の保護者に対して、今までの経験を生かしてこういうことが大事だという相談会などを開催したりしています。

○不登校の生徒がいる家庭に対する対応はどうしていますか。また、どういう形の不登校が多いですか。

⇒15人いたら15人とも違うので一律の対応は難しいです。家庭の中の生活習慣が十分ついていない、送り出しができていないなどの家庭事情、学校での勉強、友達関係などそれぞれ不登校の原因は違います。保護者と一生懸命連携を取って解決しようと思いますが、保護者の意識もまちまちであったり、何かと苦労して対応している状況です。

○今家庭のことがありましたが、これを期により地域の学校という位置づけを明確にするというのではないかと思います。特に北方南小学校には新たに中学校ができることになるので、南学園は南部地域のコミュニティの中心となってくると思います。これまでも北方中学校で子どもたちが地域の行事に積極的に参加する様子や地域の方から声をかけていただけることを見ていると、今は地域連携が上手くできていると思いますが、今後も何もしないままでは、だんだんと薄れていくという時代が変わっていってしまうと思います。今回、北方学園構想をいい機会にして再度、学校が地域へ積極的に参加していく部分や、家庭や地域ができるだけ学校に来ていただけるような学校の運営について、学校と地域がお互い双方向に参画して密着していくということも、キーワードに入れていけるといいと思います。

○次の学習指導要領には社会に開かれた教育課程ということがあります。その開かれたということは地域から学校へということだけではなくて学校から地域へという両面があり、そのあたりの危惧は高まってきていると思います。今は学校が閉じている、地域に対して閉じている、そういう状況にあると思います。今回の義務教育学校の設置は、幼・小から高校への連携という仕組みの中で、社会に開かれた学校ということを実質的にどうやって実現していくのかということを考える、大きな転機なのではないかと思います。

○この1年間、小学生・中学生は本当に前向きに地域活動に参加してくれています。先般も町内美化運動を行いました、本当に精力的に行ってくれました。委員がおっしゃられたとおり、学校は楽しくなければいけないとのことですが、子どもサミットの

あいさつ運動では、小中学校の児童・生徒たちは最近、本当に元気な顔になりました。誰もが楽しく学校に行っている環境をこの学園構想ができるまで継続していきたい。近頃は地域も小中学生をバックアップしており、いいことはいい、注意すべきことは注意しており、私は生徒にはなるべく褒めてやって育てていくことにしています。地域のことは安心して各自治会長、民生委員にお任せして欲しいと思います。

○「だれもが」ということについて、先日、車椅子の方とお話をする機会がありました。その方によると、「ある施設の係員に『ここはバリアフリーだ』と説明されましたが、全然バリアフリーではありませんでした。私たちからしたら2センチ、3センチの段差が上れないのです。」ということがあり、感覚のズレを痛感したとのこと。もし車椅子の子どもたちが学校に通うようになった時には今回、いろいろ建物を建てられるのでそういった子どもたちの目線で学校が作れると、誰に対してもいい学校、やさしい学校になるのではないかと思います。

○インクルーシブ教育は大事な視点になってくると思います。特別支援教育というものをどのように位置づけるのかということに留まらず、一人ひとりの子どもがお互いを尊重し合える学校をどう創っていくのか、ということがインクルーシブ教育の根本になると思います。それがだれにでも、だれもがということだと思います。そのようなことも位置づけていくことが大事だと思います。

#### 4. その他

次回の日程と内容についての事務連絡。

今回は、引き続き学園の教育方針について協議したい。開催日は10月20日過ぎを予定している。